

あいであ & アイデア

飼料畑を守れ！ 創意工夫で捕獲率アップ 狩猟用くくりわな

NOSAI香川小豆支所 中野 昭知

はじめに

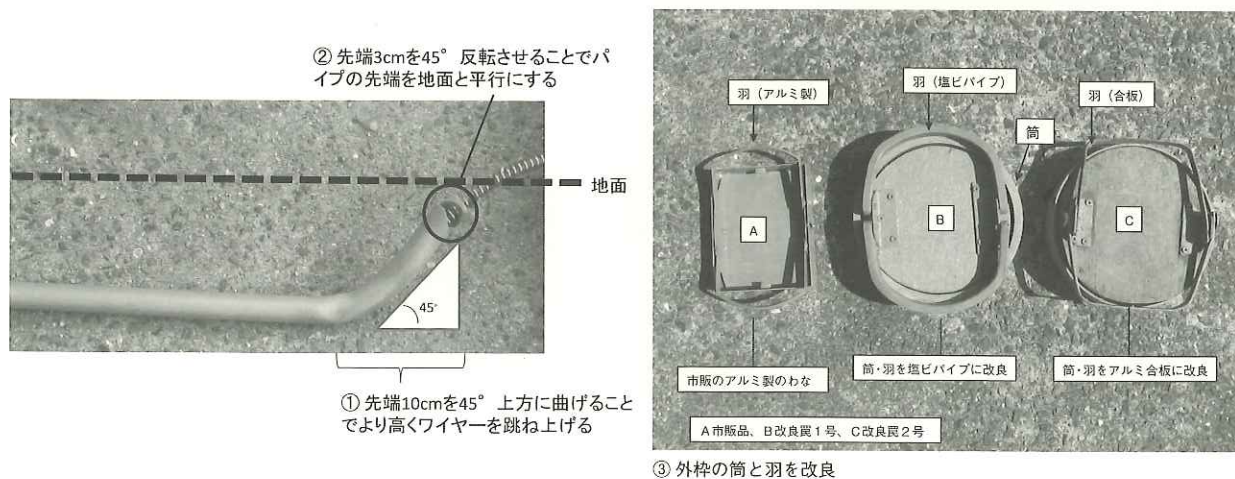
以前からニホンジカが生息していた小豆島では、1981年から大きな農林業被害が発生して飼料畑が荒らされるなど、畜産経営にとっても深刻な被害となっています。最近ではイノシシが海を渡って住みつき、被害は一層、拡大しています。小豆島町中山の高橋宇太郎さん（72）は、独自の狩猟用くくりわなを製作し、シカ、イノシシの捕獲に効果を上げているので紹介します。

ポイントはワイヤーの跳ね上げ位置

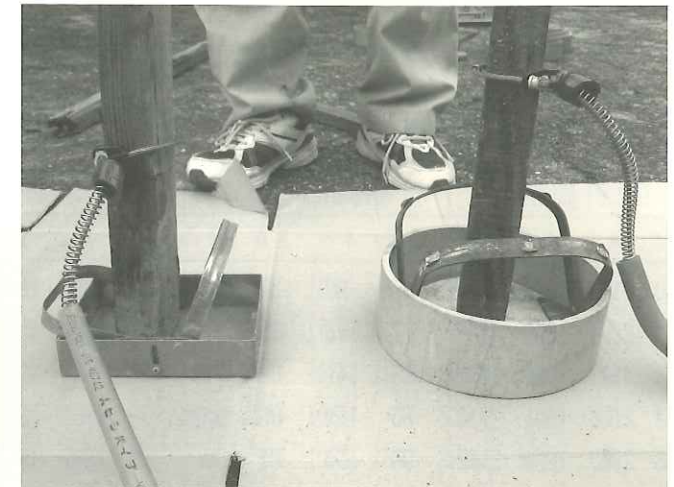
高橋さんは2013年11月に狩猟免許を取得し、くくりわなを仕掛けていました。しかし、当初はなかなか捕獲できなかったといいます。「市販のわなはワイヤーの跳ね上げ位置が低いから、かかっても外れて逃げられる」と考えた高橋さんは、跳ね上げたワイヤーが足の高い位置まで届くよう、改良を重ねました。

改良したポイント

- ①収縮させたスプリングを格納するパイプの先端部分10cmほどを、ワイヤーが跳ね上がる上方向へ熱で45° 曲げる。
- ②わなを埋め込む時に、本体とパイプ先端が水平に保てるようパイプの先端3cm位を切断し、



(写真1) 自作のわなを仕掛ける高橋さん



(写真2) 市販のわな（写真左）と自作のわな（同右）。高く跳ね上がったワイヤーが足を固定し、外れにくくなる

切断した先端部分を逆向きに取り付け角度を自由に変えられるよう工夫。

- ③埋め込む外枠の筒を直径22cmの塩ビパイプを使い、それに合わせ踏み込み板も少し大きく加工。ワイヤーを跳ね上げる羽部分は、変形しにくい塩ビパイプ、アルミ合板で作成。

捕獲率は大幅にアップ

ワイヤーは以前より5～10cm高く跳ね上がるようになり、捕獲率は改良前よりも大幅にアップしました。

当初、くくりわなを仕掛け始めてから改良するまでの4ヵ月間の捕獲数はシカ1頭でしたが、今年4月～11月の8ヵ月間でシカ12頭、イノシシ6頭を捕獲できたといいます。設置は5ヵ所。材質やサイズなどを試行錯誤しながら改良を重ねた結果です。

製作費は市販品価格の2分の1

製作に必要な部品は、ホームセンターやインターネットで取り寄せました。仕上がるまでの経費は、市販のわな1台の購入価格約6000円と比較すると、半分の3000円ほどで仕上がり、経費削減にもなっています。

わなの評判を聞きつけた町内の農業者からは、「自分も作ってみるから、作り方やポイントを教えてほしい」と依頼され、その都度、丁寧に指導しています。高橋さんは「獣害は地域全体の問題。農業者たちの協力で、被害を軽減していきたい」と意気込みます。

（筆者：NOSAI香川小豆支所事業課係長）
記事企画取材協力 農業共済新聞

あいであ & アイデア